

## 第1章 調査の概要

### （調査の趣旨）

職業資格の取得とキャリア形成の実態を把握し、中長期的なキャリア形成支援に向けたキャリア・コンサルティングの基礎資料とする目的で、職業資格を所持する人及び職業資格の取得を考えている人に対するWEB調査を実施した。

### （調査方法、時期、回収数、集計対象）

WEB調査モニターの中から、25歳以上で一定の職業資格を有する人をスクリーニングにより抽出し、それぞれの資格について50～150サンプル、また、25歳以上で職業資格の取得を考えている未所持者1,000サンプルを目標に、調査を実施した。

スクリーニング調査は2014年3月7～19日、本調査は同年3月20～27日に実施し、回答総数は資格所持者が8,395名、取得希望の未所持者が1,011名、合計9,406名となった。この中から自由記述の資格名に基づいて今回の調査対象外の資格や内容不明のものを除いた結果、資格所持者の有効回答は8,316件となり、さらに、資格別のプロフィールを作成するため、スクリーニング時に一覧から選択された資格と自由記述欄に回答者が記述した資格名が一致したサンプルに限定して資格別集計を行うこととした。

### （調査対象資格）

本調査は、中長期的キャリア形成支援措置の対象となる教育訓練の受講に当たって実施されるキャリア・コンサルティングの資料とすることを目的として実施したが、調査時点では対象となる教育訓練の指定の考え方や基準、範囲が確定していなかった。このため、対象となる可能性がある業務独占資格や名称独占資格を中心に、図表1-1の資格をリストアップし、スクリーニングによりいずれかの資格を所持していると回答した人に調査を依頼した。

したがって、本調査は、いわゆる「職業資格」と一般に考えられている資格を網羅するものではなく、また、できるだけ各資格について一定数のサンプルを得るため、上限を設けてサンプルを収集しており、実際の資格所持者の数に比例した構成にはなっていない。これらの点から、本調査の結果は、あくまで図表1-1に示したような構成の資格所持者の集団を対象とするものであるということが前提である。

また、一部の資格については、まとめた区分としてサンプルを収集しており（「はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師」、「栄養士、管理栄養士」、「看護師、准看護師」など）、分野や等級が分かれている資格についても一括した区分としている（「技術士」、「建築士」、「電気工事士」など）。制度や名称等の変更があった場合は、旧資格に対応する現行資格に位置づけている。このような等級や分野等の違いは、本来区別して取り扱うべきものであるが、調査期間や方法等の制約もあり、できるだけ多くの資格についての情報を同時に共通様式で

収集することを優先した。以下、本調査では、ひとつの資格区分として設定した資格を「資格区分」と表記する。

なお、中長期的キャリア形成支援措置の対象となる教育訓練の指定の考え方や基準、範囲を示した「雇用保険法第60条の2第1項に規定する厚生労働大臣が指定する教育訓練の指定基準」が平成26年5月16日に告示され、訓練内容の基準は、

- ①業務独占資格や名称独占資格のうち、いわゆる養成施設の課程（訓練期間は1年以上3年以内）
  - ②専修学校の職業実践専門課程（期間は2年）
  - ③専門職学位課程（期間は2年以内（資格の取得につながるものにあっては3年以内））
- となった。

図表1-1 調査対象資格区分一覧

<p><b>【技能検定、技術士】</b>  <input type="checkbox"/>技能士(ものづくり、工事、整備関連分野) <input type="checkbox"/>技能士(オフィス、サービス関連分野) <input type="checkbox"/>技術士</p> <p><b>【介護・福祉関連】</b>  <input type="checkbox"/>訪問介護員2級・介護職員初任者研修 <input type="checkbox"/>訪問介護員1級・介護職員基礎研修・介護職員実務者研修 <input type="checkbox"/>介護福祉士*  <input type="checkbox"/>介護支援専門員(ケアマネージャー) <input type="checkbox"/>移動支援従業者(ガイドヘルパー)  <input type="checkbox"/>居宅介護従業者(障がい者(児)ホームヘルパー) <input type="checkbox"/>福祉用具専門相談員 <input type="checkbox"/>精神保健福祉士* <input type="checkbox"/>社会福祉士*  <input type="checkbox"/>保育士* <input type="checkbox"/>その他の介護・福祉関係の資格</p> <p><b>【医療関連】</b>  <input type="checkbox"/>看護師*、准看護師* <input type="checkbox"/>保健師* <input type="checkbox"/>助産師* <input type="checkbox"/>理学療法士* <input type="checkbox"/>作業療法士* <input type="checkbox"/>言語聴覚士* <input type="checkbox"/>視能訓練士*  <input type="checkbox"/>臨床検査技師* <input type="checkbox"/>はり師*、きゆう師*、あん摩マッサージ指圧師* <input type="checkbox"/>柔道整復師* <input type="checkbox"/>救急救命士* <input type="checkbox"/>臨床工学技士*  <input type="checkbox"/>診療放射線技師* <input type="checkbox"/>歯科衛生士* <input type="checkbox"/>歯科技工士* <input type="checkbox"/>薬剤師 <input type="checkbox"/>登録販売者 <input type="checkbox"/>その他の医療保健関連の資格</p> <p><b>【生活・衛生関連】</b>  <input type="checkbox"/>栄養士*、管理栄養士 <input type="checkbox"/>調理師* <input type="checkbox"/>製菓衛生師* <input type="checkbox"/>理容師* <input type="checkbox"/>美容師* <input type="checkbox"/>食品衛生管理者 <input type="checkbox"/>色彩検定  <input type="checkbox"/>その他の生活・衛生関連の資格</p> <p><b>【製造・安全衛生・車両関連】</b>  <input type="checkbox"/>溶接技能者 <input type="checkbox"/>危険物取扱者 <input type="checkbox"/>ボイラー技士 <input type="checkbox"/>安全管理者 <input type="checkbox"/>衛生管理者 <input type="checkbox"/>玉掛け技能者  <input type="checkbox"/>フォークリフト技能者 <input type="checkbox"/>クレーン・デリック運転士 <input type="checkbox"/>普通自動車免許(二種) <input type="checkbox"/>大型自動車免許 <input type="checkbox"/>自動車整備士  <input type="checkbox"/>その他の製造・安全衛生・車両関連の資格(普通自動車免許(一種)二輪免許を除く)</p> <p><b>【建築・土木・電気・不動産関連】</b>  <input type="checkbox"/>建築士* <input type="checkbox"/>測量士* <input type="checkbox"/>電気工事士* <input type="checkbox"/>電気主任技術者 <input type="checkbox"/>施工管理技士 <input type="checkbox"/>宅地建物取引主任者 <input type="checkbox"/>不動産鑑定士  <input type="checkbox"/>土地家屋調査士 <input type="checkbox"/>マンション管理士 <input type="checkbox"/>その他の建築・土木・電気・不動産関連の資格</p> <p><b>【IT・OA関連】</b>  <input type="checkbox"/>基本情報技術者 <input type="checkbox"/>応用情報技術者 <input type="checkbox"/>日商PC検定 <input type="checkbox"/>IT関連企業の能力認定(JAVAプログラミング能力認定、  <input type="checkbox"/>オラクルマスター、シスコ技術者認定、マイクロソフト・オフィス・スペシャリストなど)  <input type="checkbox"/>その他のIT・OA関連の資格(旧制度の資格を含む)</p> <p><b>【経理・財務・法務・労務関連】</b>  <input type="checkbox"/>簿記 <input type="checkbox"/>公認会計士 <input type="checkbox"/>税理士 <input type="checkbox"/>証券アナリスト <input type="checkbox"/>ファイナンシャル・プランナー <input type="checkbox"/>中小企業診断士  <input type="checkbox"/>社会保険労務士 <input type="checkbox"/>弁理士 <input type="checkbox"/>司法書士 <input type="checkbox"/>行政書士 <input type="checkbox"/>産業カウンセラー <input type="checkbox"/>キャリアコンサルタント  <input type="checkbox"/>その他の経理・財務・法務・労務関連の資格</p> <p><b>【事務・販売・語学・観光関連】</b>  <input type="checkbox"/>通関士 <input type="checkbox"/>販売士 <input type="checkbox"/>消費生活アドバイザー <input type="checkbox"/>秘書検定 <input type="checkbox"/>医療事務 <input type="checkbox"/>語学検定(英検・TOEIC・TOEFLなど)  <input type="checkbox"/>通訳案内士 <input type="checkbox"/>旅行業務取扱管理者 <input type="checkbox"/>その他の事務・販売・語学・観光関連の資格</p> <p><b>【教育関連、その他】</b>  <input type="checkbox"/>司書 <input type="checkbox"/>学芸員 <input type="checkbox"/>幼稚園教諭 <input type="checkbox"/>小学校教諭 <input type="checkbox"/>その他の教育関連の資格 <input type="checkbox"/>臨床心理士 <input type="checkbox"/>専門職大学院学位*</p>
--

\*印が中長期的なキャリア形成支援措置の対象となる資格

## 第2章 調査結果の概要

### 第1節 回答者の基本属性

資格所持者の属性をみると、性別では、男性が約6割（61.4%）、女性が約4割（38.6%）であり、年齢別には40代が最も多く（30.3%）、次いで50代（26.9%）であり、50代以上が46.8%と半数近い。最終学歴では大学卒業者が46.7%と半数近くを占めている（図表2-1）。

就業状況をみると、雇用されて働いている人が6割強（63.0%）、仕事をしていない人が約2割（20.4%）であり、雇用者のうち正社員の比率は7割強（72.6%）である（図表2-2、2-3）。

図表2-1 回答者の属性（資格所持者）

性	回答数	構成比(%)	最終学歴	回答数	構成比(%)
男性	5102	61.4	高校卒業	1252	15.1
女性	3214	38.6	専修学校・各種学校卒業	1269	15.3
年齢	回答数	構成比(%)	短大・高専卒業	936	11.3
20代	285	3.4	大学卒業	3886	46.7
30代	1621	19.5	大学院・専門職大学院(修士以上)修了	632	7.6
40代	2519	30.3	その他(中退、在学中含む)	322	3.9
50代	2241	26.9	無回答	19	0.2
60代以上	1650	19.8	合計	8316	100.0

図表2-2 回答者の就業状況（資格所持者）

就業状況	回答数	構成比(%)
雇用されて働いている	5241	63.0
自営、会社経営	1195	14.4
家業の手伝い	93	1.1
仕事をしていない	1698	20.4
無回答	89	1.1
合計	8316	100.0

図表2-3 回答者の雇用形態（資格所持者）

雇用形態	回答数	構成比(%)
正社員	3804	72.6
契約社員(フルタイム)	392	7.5
嘱託社員(定年退職後の再雇用)	120	2.3
パート・アルバイト	786	15.0
派遣社員	129	2.5
無回答	10	0.2
合計	5241	100.0

これから資格を取得したい人の属性をみると、性別では、資格所持者とほぼ同様に男性が約6割（61.2%）、女性が約4割（38.8%）であり、年齢別でも、40代が最も多いことは同様であるが（33.3%）、60代が資格所持者よりやや少なく、50代以上は41.7%となっている。最終学歴でも大学卒業者が48.4%と半数近くを占めていることは資格所持者と同様であるが、専修学校・各種学校の卒業者が6.9%と資格所持者より少ない（図表2-4）。

就業状況をみると、雇用されて働いている人が約3分の2（64.3%）、仕事をしていない人が約2割（21.4%）であり、資格所持者と大きな違いはない（図表2-5）。雇用者のうち正社員の比率は68.3%であり、資格所持者よりやや少ない（図表2-6）。

図表2-4 回答者の属性(これから資格を取得したい人)

性	回答数	構成比(%)	最終学歴	回答数	構成比(%)
男性	619	61.2	高校卒業	201	19.9
女性	392	38.8	専修学校・各種学校卒業	70	6.9
年齢	回答数	構成比(%)	短大・高専卒業	133	13.2
20代	49	4.8	大学卒業	489	48.4
30代	203	20.1	大学院・専門職大学院(修士以上)修了	65	6.4
40代	337	33.3	その他(中退、在学中含む)	51	5
50代	262	25.9	無回答	2	0.2
60代以上	160	15.8	合計	1011	100.0

図表2-5 回答者の就業状況(これから資格を取得したい人)

就業状況	回答数	構成比(%)
雇用されて働いている	650	64.3
自営、会社経営	101	10.0
家業の手伝い	15	1.5
仕事をしていない	216	21.4
無回答	29	2.9
合計	1011	100.0

図表2-6 回答者の雇用形態(これから資格を取得したい人)

雇用形態	回答数	構成比(%)
正社員	444	68.3
契約社員(フルタイム)	51	7.8
嘱託社員(定年退職後の再雇用)	10	1.5
パート・アルバイト	122	18.8
派遣社員	23	3.5
合計	650	100.0

## 第2節 資格区分別構成

この調査は、スクリーニング調査において図表1-1の資格区分で所持している資格を選択し、複数資格を所持している人については原則として最も重視している資格を1つ選び、その資格について本調査の質問に回答してもらうという流れで実施した。ただし、類似した名称の資格との混同や一覧表の資格区分の選択違いなども想定されたため、本調査冒頭に資格の正式名称を自由記述方式で記入してもらうこととした。双方を突き合わせた結果、他に名称が類似した資格が存在する資格区分を中心に、選択した資格と記述資格とが一致しないサンプルがみられた。資格別集計は、スクリーニングで選択した資格区分と回答者により記入された資格名称が一致したサンプルについてのみ実施することとし、不一致サンプルを除いた後25以上のサンプル数が得られた85の資格区分（その他区分を除く）を対象とした。

スクリーニング時に提示した分野別にみた内訳は図表2-7、個別資格区分ごとのサンプル数は図表2-8の通りである。以下、本稿で資格別の状況について記述する場合は、特に断りがない限り、この85の資格区分のデータ（サンプル数の合計6455件）に基づいて分析した結果である。

図表2-7 資格区分別集計対象の分野別内訳

分野	度数	構成比 (%)
技能検定、技術士	127	2.0
介護・福祉	626	9.7
医療	1307	20.2
生活・衛生	472	7.3
製造・安全衛生・車両	906	14.0
建築・土木・電気・不動産	732	11.3
I T・O A	325	5.0
経理・財務・法務・労務	819	12.7
事務・販売・語学・観光	643	10.0
教育、その他	498	7.7
合計	6455	100.0

図表2-8 資格区分別集計対象のサンプル数

技能検定、技術士	127	普通自動車免許(二種)	57
技能士(ものづくり、工事、整備関連分野)	54	大型自動車免許	88
技能士(オフィス、サービス関連分野)	29	自動車整備士	102
技術士	44	建築・土木・電気・不動産関連	732
介護・福祉関連	626	建築士	114
訪問介護員2級・介護職員初任者研修	111	測量士	85
訪問介護員1級・介護職員基礎研修・介護職員実務者研修	65	電気工事士	103
介護福祉士	68	電気主任技術者	101
介護支援専門員(ケアマネージャー)	55	施工管理技士	101
移動支援従業者(ガイドヘルパー)	35	宅地建物取引主任者	110
福祉用具専門相談員	44	不動産鑑定士	25
精神保健福祉士	97	土地家屋調査士	47
社会福祉士	48	マンション管理士	46
保育士	103	IT・OA関連	325
医療関連	1307	基本情報技術者	83
看護師、准看護師	107	応用情報技術者	65
保健師	90	日商PC検定	82
助産師	44	IT関連企業の能力認定	95
理学療法士	117	経理・財務・法務・労務関連	819
作業療法士	70	簿記	96
言語聴覚士	42	公認会計士	51
臨床検査技師	64	税理士	55
はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師	108	証券アナリスト	47
柔道整復師	86	ファイナンシャル・プランナー	101
救急救命士	58	中小企業診断士	58
臨床工学技士	43	社会保険労務士	101
診療放射線技師	109	弁理士	35
歯科衛生士	87	司法書士	67
歯科技工士	71	行政書士	116
薬剤師	116	産業カウンセラー	49
登録販売者	95	キャリアコンサルタント	43
生活・衛生関連	472	事務・販売・語学・観光関連	643
栄養士、管理栄養士	104	通関士	53
調理師	99	販売士	90
製菓衛生師	37	消費生活アドバイザー	43
理容師	56	秘書検定	95
美容師	53	医療事務	96
食品衛生管理者	42	語学検定(英検・TOEIC・TOEFLなど)	103
色彩検定	81	通訳案内士	48
製造・安全衛生・車両関連	906	旅行業務取扱管理者	115
溶接技能者	50	教育関連、その他	498
危険物取扱者	109	司書	105
ボイラー技士	97	学芸員	96
安全管理者	44	幼稚園教諭	99
衛生管理者	99	小学校教諭	91
玉掛け技能者	85	臨床心理士	50
フォークリフト技能者	95	専門職大学院学位	57
クレーン・デリック運転士	80	合計	6455

### 第3節 調査結果の概要

#### (1) 職業資格所持者の全体概況

ここでは、職業資格を所持している人全体の状況について、主要項目の集計結果を要約する。資格別の状況も含めた詳細については、第3章以下で具体的に述べる。

##### ① 職業資格を取得したときの状況 (N=8316)

資格取得の時期は、働きながら資格を取得した人が6割弱(56.6%)、在学中が3割(30.6%)、仕事を辞めて、または求職活動をしながら取得した人が合わせて1割(5.2%、4.5%)という構成になっている。

資格取得の動機は、「仕事上資格があるほうが有利」(35.2%)、「資格が必要な職業に就くため」(31.1%)、「自分自身の勉強や自己啓発のため」(27.8%)という回答が3割前後あり、上位を占めている。

選んだ資格の魅力・メリットは「自分の経験や知識を生かせる」(38.2%)、「自分の適性や志向に合っている」(30.9%)が3割を超え、他の項目は回答が分散している。

資格取得学習前の準備として、学校や教育訓練機関の情報を集めた人が4割弱(36.5%)、「特に準備しなかった」という人は4割強(42.3%)である。勉強方法は「自学自習」が最も多く33.0%、次いで「学校」が30.5%となっている。

資格取得に関して課題となったこと、苦労したことは「仕事との両立」であると回答した人が最も多く、その一方で、「特にない」という人も半数近く(45.0%)いる。

##### ② 在職中に資格を取った人の状況 (N=4709)

勤務先の支援制度として最も多いのは「学費や受験料の補助」(31.1%)、次いで「相談や情報提供」(16.2%)であり、労働時間や配置などの配慮はいずれも1割に満たない。

制度がある場合の利用状況としても、最も高いのは「学費や受験料の補助」で、8割以上(83.5%)が利用している。「相談や情報提供」(72.0%)、「残業の免除」(70.1%)も利用率は高い。

あれば役立つ制度としても「学費や受験料の補助」が最も多い(56.4%)。

資格取得活動に対する職場の対応としては、「特別の対応なし」が最も多く、半数弱(45.7%)、「積極的に応援してくれた」は4人に1人(25.0%)である。

資格を取ったことによる働き方や処遇の変化は「特に変化なし」が約6割(57.9%)、収入面の変化は「特に変化なし」が7割(70.5%)と、変化がないとする人が多い。変化があった点としては、「周囲からの評価が高まった」(14.5%)、「社内で担当分野が広がった」(10.6%)、「資格手当がつくようになった」(15.1%)などがあげられている。

中長期的な職業生活設計の見直しに関しては、「特に見直したいと思ったことはない」が

6割超（63.4%）と多い。見直しを希望したこととして最も多いのは「社内で資格を生かした仕事をする事」（11.7%）であり、この希望は4人に3人（75.1%）で実現している。

### ③ 仕事を辞めて、または求職活動中に資格取得した人の状況（N=803）

就職活動への資格取得の効果は「資格を活かせる仕事に就くことができた」が半数強（53.0%）、「就職したが資格取得は就職活動に効果がなかった」が15.3%である。仕事を辞めて学習に専念した人は資格を活かせる仕事に就くことができた割合が7割近い（68.1%）、求職活動中に取得した人では3割程度（35.8%）にとどまる。

### ④ 複数資格を所持している人の状況（N=4536）

複数の資格を所持している人は資格所持者の半数強（54.5%）であり、複数の資格を所持していることについて、仕事やキャリア形成の上で「役立った」が46.3%、「効果は特にない」が31.9%となっている。

「役立った」と評価する人では、「より広い分野の仕事に対応できるようになった」（51.7%）、「より高度な専門性が身についた」（44.7%）などをあげる人が多い。

### ⑤ 資格取得に対する評価、追加取得の予定（N=8316）

資格を取得したことについての総合的判断は4人に3人が肯定的評価である（「非常によかった」29.5%、「どちらかというプラス」46.1%）。最もよかったと思うことは「専門能力や知識が向上したこと」（38.5%）があげられている。

新たな資格取得に向けて「勉強中」（10.4%）、「検討中」（21.2%）と約3割が追加取得を考えている。追加取得の理由は「より高度な専門性を身につけたい」（48.0%）、「より広い分野の仕事に対応したい」（42.3%）、「新たな可能性にチャレンジしたい」（38.6%）などである。

## （2）これから資格を取得したい人のニーズと意識（N=1011）

資格取得の動機は「自分自身の勉強や自己啓発」（28.3%）、「仕事上資格があるほうが有利」（26.4%）などであり、取得したい資格の魅力・メリットとしては「自分の経験や知識を生かせる」（32.7%）、「自分の適性や志向に合っている」（26.2%）などがあげられている。

資格が取得できたら職業生活設計に反映させたいこととしては、「資格を生かした仕事に就きたい」が4割強（42.8%）と最も多い。

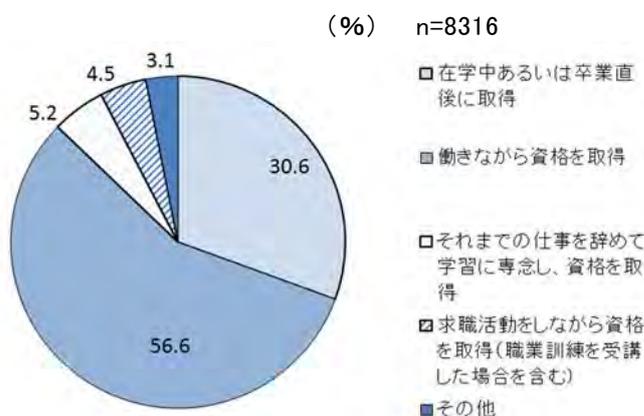
資格取得に関して課題となること、心配なこととしては、「学費、教材費などの費用負担」（42.8%）、「仕事との両立」（34.5%）、「勉強や通学のための時間」（34.3%）などがあげられており、「特にない」は1割強（13.3%）と資格所持者に比べて少ない。

## 第3章 資格を取得したときの状況

### 第1節 資格取得の時期

資格を所持している人（n=8316）の資格取得時期は、在職中が56.6%、在学中あるいは卒業直後が30.6%、仕事を辞めて学習に専念し取得した人が5.2%、求職活動中が4.5%という構成になっている（図表3-1）。

図表3-1 資格取得時期



資格取得の時点は資格によって大きく異なる。分野別にみると、有資格者であることを前提として特定の職種に入職する医療や教育関係では、在学中あるいは卒業直後に取得した人の比率が高く（以下、「在学時型」という）、技能検定・技術士、建築・土木・電気・不動産、経理・財務・法務・労務などの資格では働きながら資格を取得する人の比率が高い（以下、「在職時型」という）（図表3-2）。また、介護・福祉やIT・OAでは求職活動をしながらか取得したという比率が他の資格分野と比べて高くなっている。

図表3-2 資格取得時期(資格分野別)

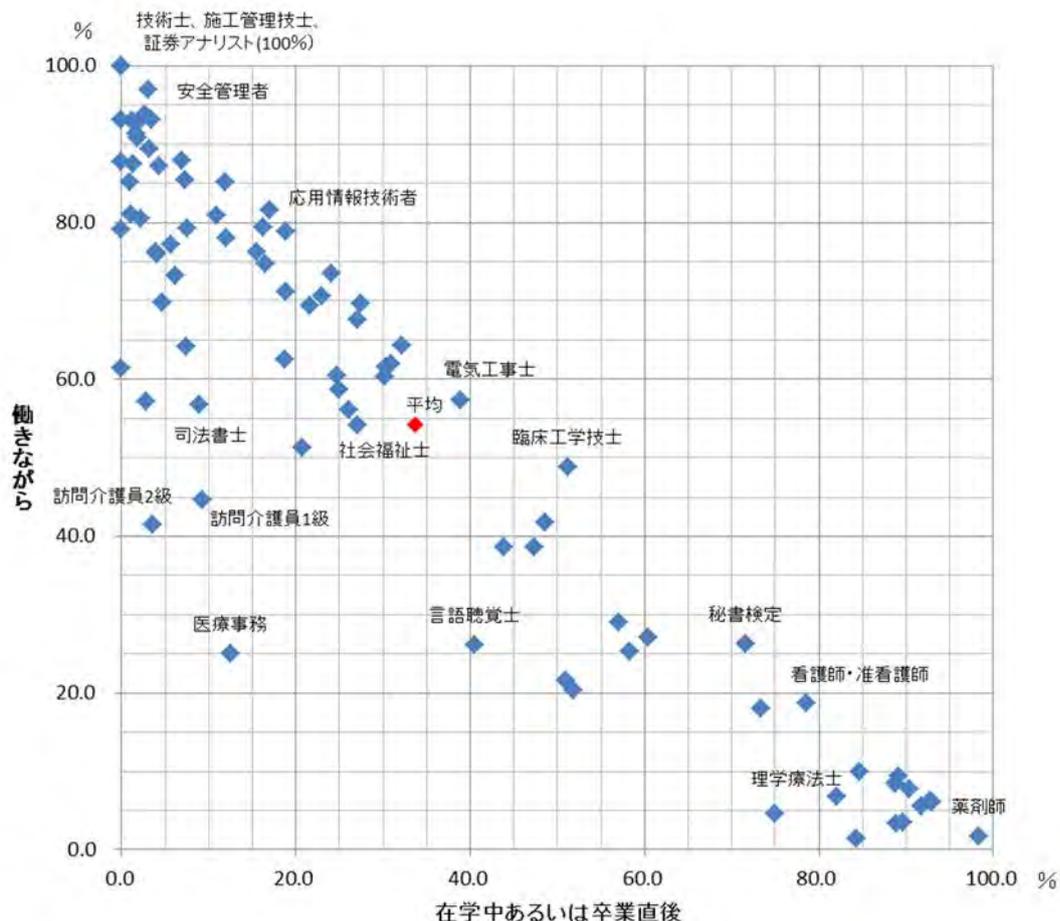
(%)

分野	在学中あるいは卒業直後に取得	働きながら資格を取得	それまでの仕事を辞めて学習に専念し、資格を取得	求職活動をしながらか取得(職業訓練を受講した場合を含む)	その他	合計	n=資格別集計サンプル数
技能検定、技術士	1.6	94.5	0.8	3.1	0.0	100.0	127
介護・福祉	17.7	56.4	8.3	12.8	4.8	100.0	626
医療	70.0	20.8	8.0	0.2	1.0	100.0	1307
生活・衛生	42.6	50.2	2.8	1.3	3.2	100.0	472
製造・安全衛生・車両	13.7	76.5	1.7	6.6	1.5	100.0	906
建築・土木・電気・不動産	11.9	82.8	2.5	1.2	1.6	100.0	732
IT・OA	16.9	66.8	3.1	11.7	1.5	100.0	325
経理・財務・法務・労務	16.0	68.0	9.0	2.4	4.5	100.0	819
事務・販売・語学・観光	28.1	53.5	5.8	7.3	5.3	100.0	643
教育、その他	73.5	20.3	4.4	0.2	1.6	100.0	498
合計	33.7	54.2	5.4	4.2	2.6	100.0	6455

※本表は資格別集計対象サンプルのみの集計

個別の資格区分ごとに細かくみても、資格取得時期は、大きく分けて在学時型と在職時型に分かれる（図表3-3、51 ページ付表1）。両者の中間型の資格もある。

図表3-3 資格取得時期(在学時か、在職時か)



※資格別集計対象サンプルのみ

在学時型の代表的な資格は、医療分野の資格や教育の資格であり、薬剤師、診療放射線技師、歯科衛生士、臨床検査技師などほとんどの資格で9割前後の人が在学中あるいは卒業直後に資格を取得している（図表3-4）。

一方、在職時型の資格には、一定の実務経験が求められる資格が多い。代表的な資格として、在職中に取得した比率が100%であった技術士、施工管理技士、証券アナリストのほか、衛生管理者、建築士など、実務系、技術系の資格の多くが在職中に取得されている（図表3-5）。また、IT分野や事務・販売分野など、入職時に資格要件が課されることがあまりない分野の資格、介護福祉士など近年資格制度の整備が進んできた介護等の分野にも、働きながら取得する人が多い資格がある（51 ページ付表1）。

図表3-4 在学中あるいは卒業直後に資格を取得した人の割合(多いほうから20 資格区分)  
(%)

薬剤師	98.3
幼稚園教諭	92.9
学芸員	92.7
診療放射線技師	91.7
栄養士、管理栄養士	90.4
歯科衛生士	89.7
臨床検査技師	89.1
保健師	88.9
歯科技工士	88.7
小学校教諭	84.6
作業療法士	84.3
理学療法士	82.1
看護師、准看護師	78.5
助産師	75.0
司書	73.3
秘書検定	71.6
簿記	60.4
保育士	58.3
柔道整復師	57.0
はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師	51.9

図表3-5 働きながら資格を取得した人の割合(多いほうから20 資格区分)  
(%)

技術士	100.0
施工管理技士	100.0
証券アナリスト	100.0
衛生管理者	97.0
建築士	93.9
安全管理者	93.2
技能士(オフィス、サービス関連分野)	93.1
玉掛け技能者	92.9
介護支援専門員(ケアマネージャー)	92.7
中小企業診断士	91.4
技能士(ものづくり、工事、整備関連分野)	90.7
登録販売者	89.5
救急救命士	87.9
産業カウンセラー	87.8
クレーン・デリック運転士	87.5
土地家屋調査士	87.2
税理士	85.5
電気主任技術者	85.1
ファイナンシャル・プランナー	85.1
応用情報技術者	81.5

両者の中間的なタイプとして、学校段階で資格を取得するケースもあるものの、実務経験を積みながら取得する人が多い資格もある。電気工事士、理容師、美容師、調理師などがこのようなタイプである（51 ページ付表1）。

仕事を辞めて資格を取得した人の割合が他の資格と比べて相対的に高いのは、言語聴覚士、司法書士、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師など（図表3-6）、求職活動中に取得した人が多いのは、訪問介護員2級・介護職員初任者研修、訪問介護員1級・介護職員基礎研修・介護職員実務者研修など福祉分野の資格、医療事務などである（図表3-7）。

図表3-6 仕事を辞めて学習に専念し、資格を取得した人の割合（多いほうから10 資格区分）  
（％）

言語聴覚士	28.6
司法書士	26.9
はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師	25.9
医療事務	24.0
公認会計士	23.5
助産師	20.5
訪問介護員1級・介護職員基礎研修・介護職員実務者研修	16.9
不動産鑑定士	16.0
専門職大学院学位	15.8
訪問介護員2級・介護職員初任者研修	13.5

図表3-7 求職活動をしながらか資格を取得した人の割合（多いほうから10 資格区分）  
（％）

訪問介護員2級・介護職員初任者研修	33.3
訪問介護員1級・介護職員基礎研修・介護職員実務者研修	29.2
医療事務	26.0
移動支援従業者（ガイドヘルパー）	25.7
福祉用具専門相談員	25.0
IT関連企業の能力認定	21.1
日商PC検定	19.5
溶接技能者	16.0
ボイラー技士	14.4
キャリアコンサルタント	14.0

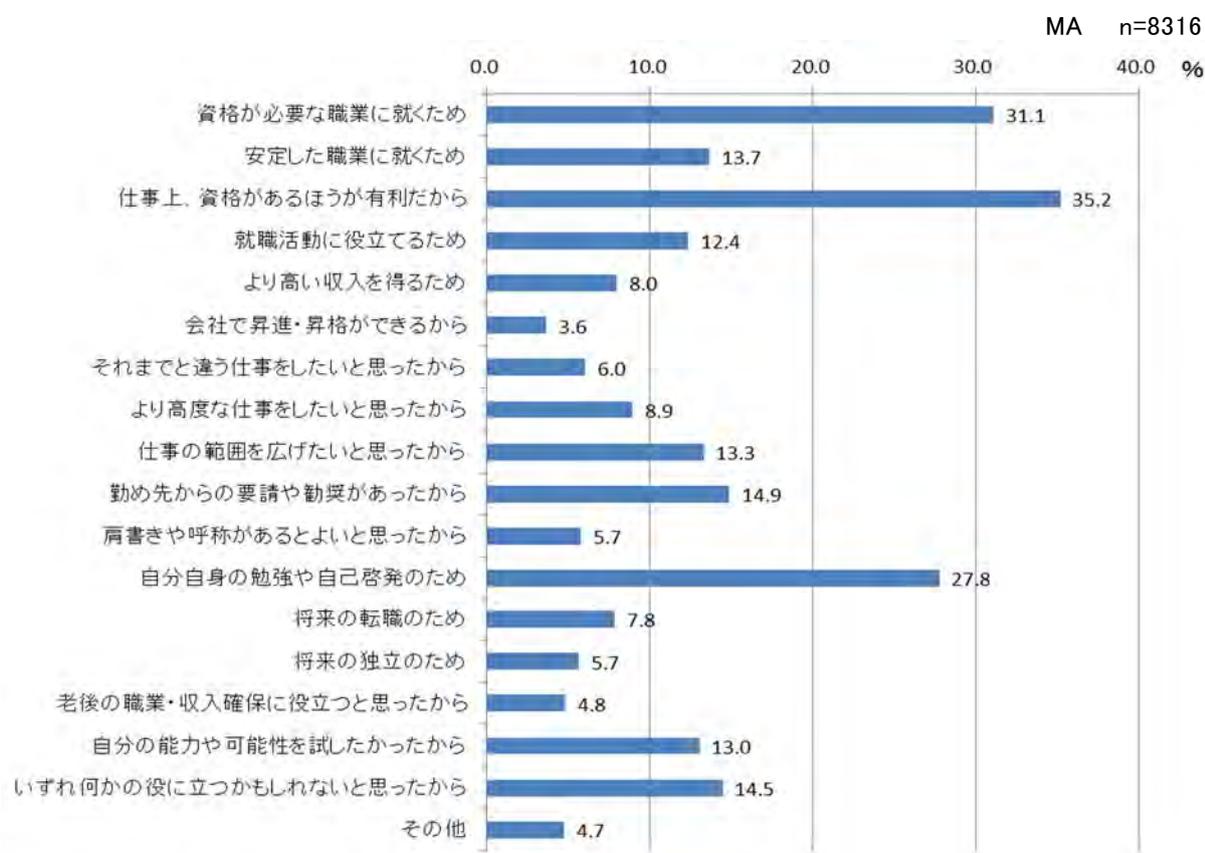
## 第2節 資格取得の動機、取得した資格の魅力

### (1) 資格取得の動機

職業資格を取得した人は、主にどのような動機で資格を取得しようと考えたのだろうか。

全体の集計では、「仕事上資格があるほうが有利」(35.2%)、「資格が必要な職業に就くため」(31.1%)、「自分自身の勉強や自己啓発のため」(27.8%)という回答がそれぞれ3割前後あり、上位を占めている(図表3-8)。

図表3-8 資格取得の動機



当然のことながら、職業資格の取得は職業選択やキャリアプランと密接に結びついており、どのような職業生活設計を立てるかによって、個人にとっての資格の位置づけや必要性が異なってくる。したがって、資格と職業との結びつきの強さに応じて、入職時の要件となる資格の場合は「資格が必要な職業に就くため」が多く、仕事の幅を広げたり、ステップアップをめざしたりするために取得される資格の場合は「仕事上資格があるほうが有利」、自分の能力開発や将来に向けての中長期的な準備をする人が多い資格の場合は「自分自身の勉強や自己啓発のため」というように、資格取得動機にも違いがみられると考えられる。そこで、資格取得時期および資格分野別に、資格取得の動機の違いをみしてみる。

まず、資格取得時期別にみる（図表3-9）。それぞれの上位3項目をあげると、在学時に取得した人では、①「資格が必要な職業に就くため」（50.4%）、②「安定した職業に就くため」（25.8%）、③「仕事上資格があるほうが有利」（23.5%）、在職時に取得した人では①「仕事上資格があるほうが有利」（43.9%）、②「自分自身の勉強や自己啓発」（30.9%）③「勤め先の要請や勧奨」（25.1%）、仕事を辞めて資格取得に専念した人では、①「資格が必要な職業に就くため」（41.0%）、②「自分自身の勉強や自己啓発」（27.8%）、③「それまでとは違う仕事をしたいと思ったから」（26.9%）、求職活動中に資格を取得した人では、①「就職活動に役立てるため」（47.3%）、②「自分自身の勉強や自己啓発」（32.1%）、③「仕事上、資格があるほうが有利」（31.8%）となっている。資格取得時点での状況を反映し、在職時に取得した人では「勤め先からの要請や勧奨」、仕事を辞めて資格取得に専念した人では「違う仕事をしたい」、求職活動中に取得した人では「就職活動に役立てる」といった項目が上位にあがっている。

図表3-9 資格取得の動機（資格取得時期）

資格取得動機	MA (%)					合計
	在学中あるいは卒業直後に取得	働きながら資格を取得	それまでの仕事を辞めて学習に専念し、資格を取得	求職活動をしながらか資格を取得（職業訓練を受講した場合を含む）	その他	
資格が必要な職業に就くため	50.4	20.8	41.0	27.0	17.9	31.1
安定した職業に就くため	25.8	6.7	19.0	17.6	6.6	13.7
仕事上、資格があるほうが有利だから	23.5	43.9	23.8	31.8	14.8	35.2
就職活動に役立てるため	19.7	5.2	18.5	47.3	10.1	12.4
より高い収入を得るため	8.2	8.6	5.6	4.5	3.1	8.0
会社で昇進・昇格ができるから	1.0	5.7	0.0	0.0	2.7	3.6
それまでと違う仕事をしたいと思ったから	1.8	5.1	26.9	31.0	12.5	6.0
より高度な仕事をしたいと思ったから	4.8	11.3	13.0	15.0	4.7	8.9
仕事の範囲を広げたいと思ったから	4.5	18.0	11.8	13.6	7.4	13.3
勤め先からの要請や勧奨があったから	1.2	25.1	0.2	0.3	6.2	14.9
肩書きや呼称があるとよいと思ったから	4.3	6.6	4.6	5.3	8.2	5.7
自分自身の勉強や自己啓発のため	19.4	30.9	27.8	32.1	49.0	27.8
将来の転職のため	4.0	9.3	12.5	14.4	9.3	7.8
将来の独立のため	3.8	6.4	12.5	14.4	4.7	5.7
老後の職業・収入確保に役立つと思ったから	2.4	4.8	9.0	10.4	14.4	4.8
自分の能力や可能性を試したかったから	10.7	13.0	17.8	20.6	26.8	13.0
いずれ何かの役に立つかもしれないと思ったから	18.4	11.0	13.0	15.0	34.2	14.5
その他	5.4	3.5	4.9	5.6	20.6	4.7
n	2544	4709	432	374	257	8316

次に資格分野別にみる（図表3-10）。医療分野、教育分野及び生活衛生分野では「資格が必要な職業に就くため」、製造・安全衛生・車両分野では「勤め先からの要請や勧奨」、経理・財務・法務・労務分野と事務・販売・語学・観光分野では「自分自身の勉強や自己啓発」が最も多い回答となっている。その他の分野では、「仕事上資格があるほうが有利」とい

う回答が最も多い。

個別の資格区分についてみると、医療分野では、ほとんどの資格区分で「資格が必要な職業に就くため」の比率が極めて高いが、現職の消防士等が取得することが多い救急救命士では「勤め先からの要請や勧奨」が60.3%と最も多くなっている（資料編「資格別概況」参照）。

製造・安全衛生・車両分野では、安全管理者、衛生管理者、玉掛け技能者、フォークリフト技能者、クレーン・デリック運転士など、安全関係の必置資格や作業実施の必要要件となっている資格が多く、「勤め先からの要請や勧奨」が動機の第1位となっている。

自己啓発が主要な動機になっている資格としては、色彩検定、マンション管理士、中小企業診断士、語学検定、学芸員などがあげられる。

これ以外の特徴として、司法書士、土地家屋調査士では「将来の独立のため」、秘書検定では「就職活動に役立てるため」、また、栄養士・管理栄養士と普通自動車免許（二種）では、「いずれ何かの役に立つかもしれないと思ったから」が動機の第1位となっている。

図表3-10 資格取得の動機(資格分野別)

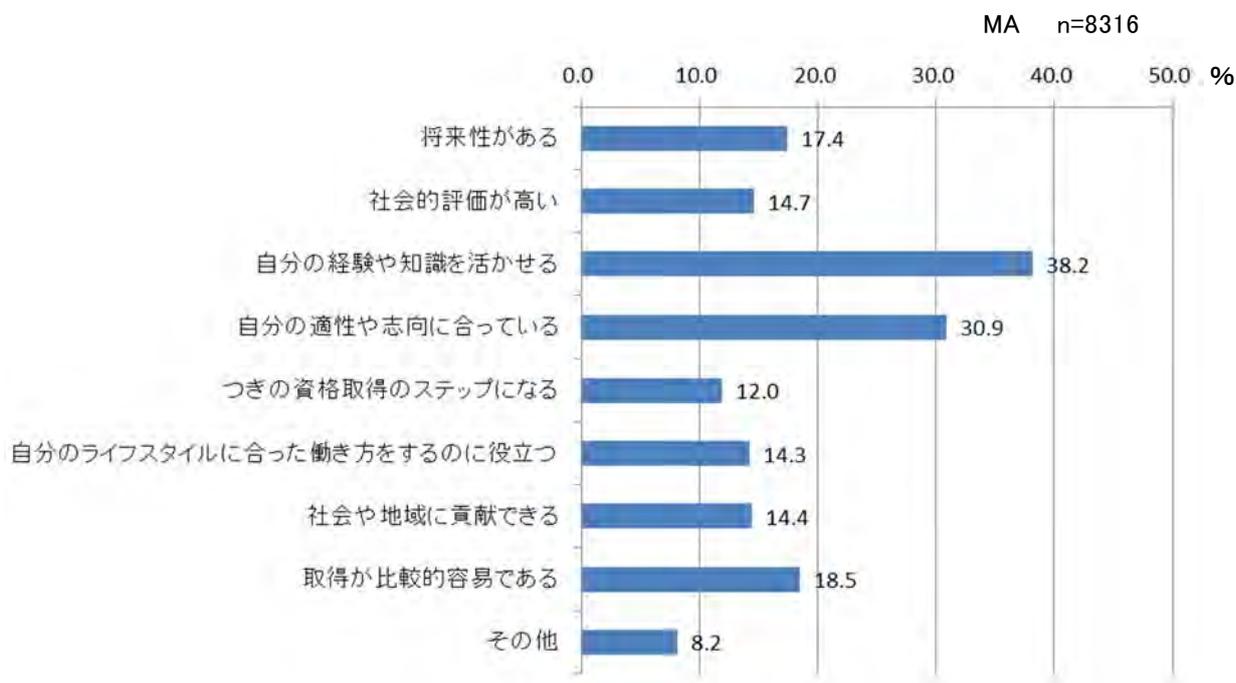
資格取得動機	MA (%)										
	技能検定、 技術士	介護・福祉	医療	生活・衛生	製造・安全衛 生・車両	建築・土木・ 電気・不動産	IT・OA	経理・財務・ 法務・労務	事務・販売・ 語学・観光	教育、その他	合計
資格が必要な職業に就くため	7.9	33.2	65.3	31.1	20.5	23.6	8.3	19.0	15.6	46.4	32.4
安定した職業に就くため	4.7	13.3	36.7	9.7	5.6	7.9	6.5	10.7	8.2	11.2	14.6
仕事上、資格があるほうが有利だから	59.8	42.0	26.1	26.5	35.5	49.3	46.2	33.3	32.5	19.1	34.3
就職活動に役立てるため	4.7	19.3	8.1	9.5	9.2	7.4	21.2	11.2	23.3	13.9	12.3
より高い収入を得るため	3.9	8.3	12.9	2.8	4.1	10.1	8.0	9.6	4.4	2.8	7.7
会社で昇進・昇格ができるから	7.1	1.9	0.9	2.5	2.6	5.5	6.2	3.4	5.1	1.0	3.0
それまでと違う仕事をしたいと思ったから	0.8	10.5	5.7	3.0	2.9	3.3	3.7	10.6	8.9	4.4	5.9
より高度な仕事をしたいと思ったから	21.3	9.1	9.4	3.2	3.3	8.6	10.2	16.5	7.3	9.0	8.9
仕事の範囲を広げたいと思ったから	16.5	20.9	6.3	8.1	10.9	15.2	10.8	20.4	16.0	5.8	12.6
勤め先からの要請や勧奨があったから	24.4	8.3	7.5	7.2	37.5	15.6	16.6	9.0	13.7	3.8	14.0
肩書きや呼称があるとよいと思ったから	19.7	7.2	3.1	6.4	2.1	7.4	4.3	9.0	7.3	6.0	5.9
自分自身の勉強や自己啓発のため	38.6	34.0	12.4	25.0	14.8	29.6	36.0	37.5	39.3	30.5	26.7
将来の転職のため	7.1	14.5	5.4	6.1	3.6	8.3	8.0	11.2	8.4	6.4	7.7
将来の独立のため	6.3	3.0	8.0	9.1	0.6	9.6	0.0	15.5	3.0	1.0	6.2
老後の職業・収入確保に役立つと思ったから	2.4	6.5	5.0	1.1	2.6	5.2	1.8	10.4	3.4	1.8	4.6
自分の能力や可能性を試したかったから	18.9	12.3	9.7	11.9	5.7	12.3	14.2	18.2	20.5	13.7	12.7
いずれ何かの役に立つかもしれないと思ったから	9.4	22.0	8.6	22.2	11.8	13.3	13.8	13.2	17.0	22.5	14.6
その他	1.6	4.3	4.1	7.4	5.7	3.1	0.9	3.8	5.3	4.6	4.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	127	626	1307	472	906	732	325	819	643	498	6455

※本表は資格別集計対象サンプルのみの集計

## (2) 取得した資格の魅力・メリット

取得した資格について、どのような点に魅力やメリットを感じたのかをみると、全体集計では、「自分の経験や知識を生かせる」(38.2%)、「自分の適性や志向に合っている」(30.9%)が3割を超え、他の項目は回答が分散している(図表3-11)。

図表3-11 取得した資格の魅力・メリット



本節の(1)でみたように、資格を取得しようと考えた動機に関しては就職や仕事上の必要性といった職業生活設計との関連が密接であったが、どの資格を取得するかという資格の選択に当たっては、経験・知識や適性・志向といった自分自身との適合性が重視されている。

資格取得時期別にみると、在学時に取得した人および仕事を辞めて資格取得した人では「自分の適性や志向にあっている」(39.0%、40.3%)、在職時に取得した人では「自分の経験や知識を活かせる」(45.7%)、求職活動中に取得した人では「取得が比較的容易」(33.4%)をあげる人が最も多い(図表3-12)。

図表3-12 取得した資格の魅力・メリット(資格取得時期別)

MA (%)

資格の魅力・メリット	在学中あるいは卒業直後に取得	働きながら資格を取得	それまでの仕事を辞めて学習に専念し、資格を取得	求職活動をしながらか取得(職業訓練を受講した場合を含む)	その他	合計
将来性がある	25.4	13.0	20.6	17.9	13.2	17.4
社会的評価が高い	16.1	14.3	16.9	8.8	11.3	14.7
自分の経験や知識を活かせる	28.3	45.7	27.3	27.5	31.5	38.2
自分の適性や志向に合っている	39.0	26.1	40.3	26.5	28.4	30.9
つぎの資格取得のステップになる	6.6	15.0	8.1	18.2	7.0	12.0
自分のライフスタイルに合った働き方をするのに役立つ	13.2	12.9	24.1	19.8	25.7	14.3
社会や地域に貢献できる	17.8	11.2	22.5	15.2	24.5	14.4
取得が比較的容易である	15.1	19.1	17.8	33.4	21.0	18.5
その他	6.3	9.3	3.9	5.3	18.3	8.2
n	2544	4709	432	374	257	8316

資格分野別にみると、在職中に取得する人が多い資格では、「経験・知識を生かせる」という回答割合が高い傾向があるが、製造・安全衛生・車両では「取得が比較的容易」をあげる回答が多い。一方、在学時型資格のうち教育分野では「適性・志向」を、医療分野では「適性・志向」のほか「将来性がある」や「社会貢献」をあげる回答が多くなっている（図表3-13）。

また、資格区分別にみた特徴的な回答としては、歯科技工士において「適性・志向」、移動支援従事者（ガイドヘルパー）や救急救命士において「社会貢献」をあげる割合が特に高いこと、情報分野において、「次の資格取得のステップ」が他の資格と比べて高いことなどがあげられる（52 ページ付表 2、資料編「資格別概況」参照）。

図表3-13 取得した資格の魅力・メリット(資格分野別)

分野	MA (%)									合計	n
	将来性がある	社会的評価が高い	自分の経験や知識を活かせる	自分の適性や志向に合っている	つぎの資格取得のステップになる	自分のライフスタイルに合った働き方をするのに役立つ	社会や地域に貢献できる	取得が比較的容易である	その他		
技能検定、技術士	9.4	26.0	65.4	26.0	16.5	12.6	4.7	4.7	3.9	100.0	127
介護・福祉	20.0	10.1	41.2	29.4	17.4	16.1	27.5	21.1	5.9	100.0	626
医療	34.4	17.8	25.9	38.4	3.6	16.1	30.5	6.4	5.2	100.0	1307
生活・衛生	11.9	3.4	31.4	32.8	7.0	19.3	7.4	24.4	10.0	100.0	472
製造・安全衛生・車両	8.4	6.1	25.6	16.0	11.7	11.3	5.0	35.8	15.5	100.0	906
建築・土木・電気・不動産	13.5	19.4	47.3	23.2	14.2	12.8	8.2	16.5	9.6	100.0	732
IT・OA	13.5	10.8	44.6	29.2	29.2	8.3	0.9	21.5	3.4	100.0	325
経理・財務・法務・労務	16.6	20.6	46.2	35.7	14.7	15.3	12.3	14.7	5.7	100.0	819
事務・販売・語学・観光	12.1	14.3	43.1	36.7	11.0	13.5	6.1	19.6	6.8	100.0	643
教育、その他	11.0	13.5	38.4	50.8	2.0	14.3	16.5	15.7	5.6	100.0	498
合計	17.5	14.0	37.1	32.0	11.1	14.3	14.6	18.2	7.7	100.0	6455

※本表は資格別集計対象サンプルのみの集計

### 第3節 資格取得の準備、学習方法など

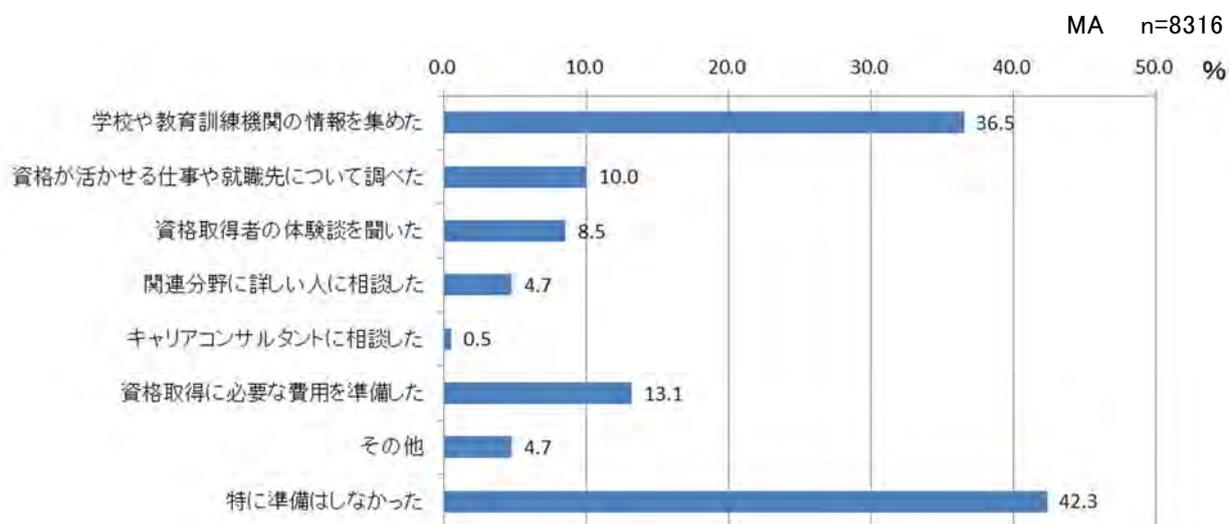
次に、資格取得のための準備や取得活動の状況についてみる。

#### (1) 学習をはじめる前の準備

資格取得の学習を始める前の準備として、全体集計では、「学校や教育訓練機関の情報を集めた」が4割弱(36.5%)、次いで「資格取得に必要な費用を準備した」13.1%、「資格が活かせる仕事や就職先について調べた」10.0%となっており、準備活動の中では学校等に関する情報収集を行った人が最も多いが、4割強(42.3%)の人は「特に準備しなかった」と回答している(図表3-14)。

資格区別にみると、医療分野において学校等の情報を集めたという回答割合が高く、また、「費用の準備」や「資格取得者の体験談を聞く」など事前準備をしている割合が他の分野に比べて高くなっている。医療分野の資格は、全体に修学年数が長く、実習費などの負担も生じる場合があることから、事前の情報収集の必要性を感じる人が多いものと考えられる。これに対して、在職中に資格を取るケースが多い資格では、「特に準備をしなかった」という回答が多くなっている(資料編「資格別概況」参照)。

図表3-14 学習を始める前の準備



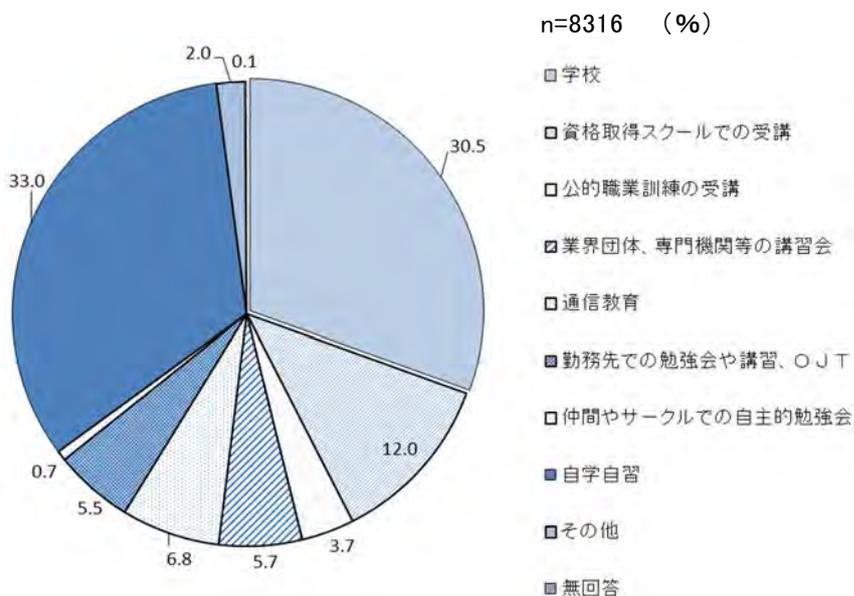
#### (2) 主な勉強方法

資格取得のための勉強はどのように行われたかという点をみると、主な勉強方法(1つ)としては、全体集計では、「自学自習」が最も多く33.0%、次いで「学校」が30.5%となっている(図表3-15)。

資格別にみると、医療分野では、多くの資格で「学校」が9割以上に達している一方、情報分野、施工管理技士、通訳案内士などのように「自学自習」の割合が高い資格もある。も

のづくりや安全関係の資格などでは、「勤務先での勉強会や講習、OJT」の比率が高くなっている。公認会計士や司法書士、税理士などの法務・会計関係の資格では、「資格取得スクール」をあげる人が多い（資料編「資格別概況」参照）。

図表3-15 主な勉強方法

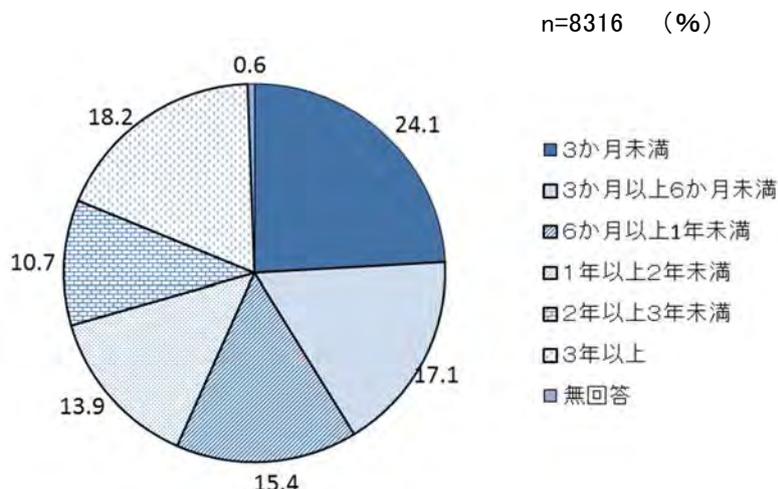


### (3) 資格取得に要した期間

資格取得に要した期間をみると、全体集計では、「3か月未満」(24.1%)に次いで「3年以上」(18.2%)と取得に要する期間が長い資格と短い資格に分かれた(図表3-16)。

資格区別にみると、医療分野を中心に資格取得期間が2~3年と長い資格が多く、逆に取得期間が比較的短いのは、実務経験の上に講習等を受講することで資格を取得できる安全関係の分野、情報分野、販売分野の資格などである(資料編「資格別概況」参照)。

図表3-16 資格取得にかかった期間

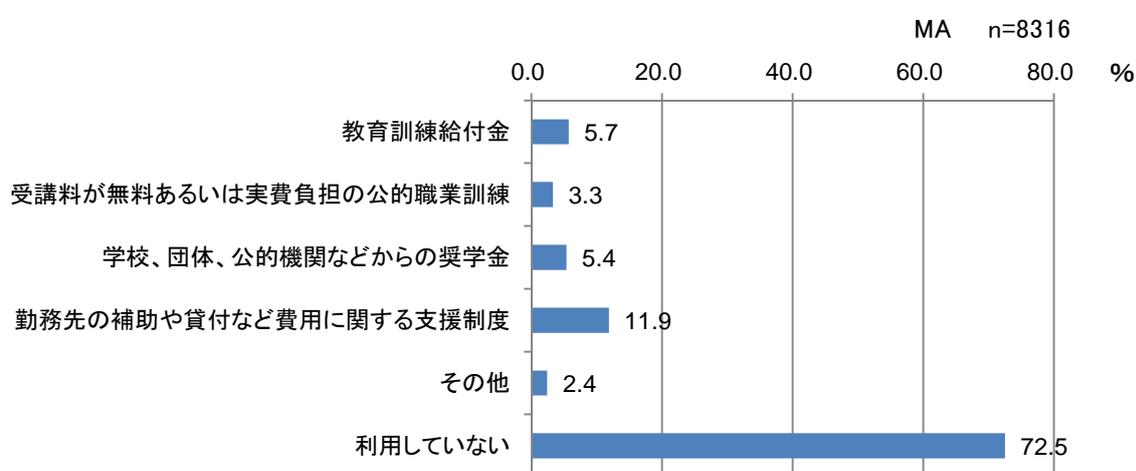


#### （４）利用した経済的支援

資格取得に際して、何らかの経済的支援を利用したかどうかをみると、全体の集計では 7割強（72.5%）が「利用していない」としている。利用されている支援で最も多いのは、「勤務先の補助や貸付など費用に関する支援制度」（11.9%）である（図表 3－17）。

資格区分別にみると、看護師、助産師では半数以上が「学校等の奨学金」や「勤務先の費用支援制度」など何らかの支援制度を利用しており、理学療法士や作業療法士も奨学金の利用割合が高くなっている。救急救命士、自動車整備士、施工管理技士、販売士などは勤務先の費用支援を利用する割合が平均と比べて高い傾向がみられる（資料編「資格別概況」参照）。

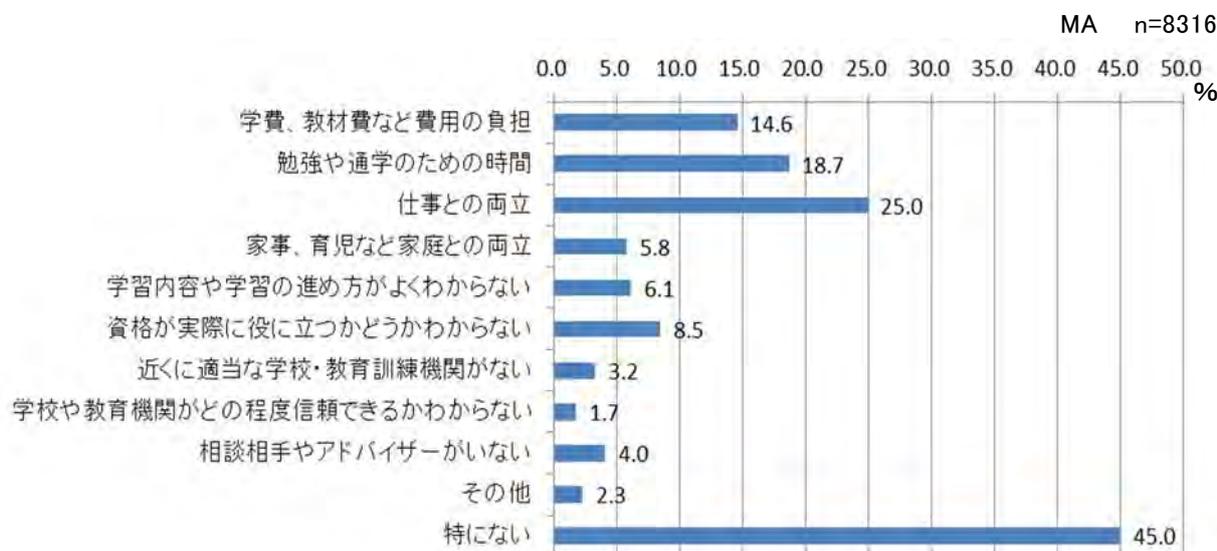
図表3－17 利用した経済的支援



#### 第4節 資格取得に関する課題、苦勞したことなど

資格取得に関して課題となったこと、苦勞したことについてたずねた。全体集計では、「仕事との両立」が最も多く4分の1（25.0%）の人があげ、これに「勉強や通学のための時間」（18.7%）、「学費、教材費などの費用の負担」（14.6%）が続く。主に費用や時間のやり繰りが課題となった人が多いことがうかがえる。一方、「特にない」という人が半数近く（45.0%）存在する（図表3-18）。

図表3-18 資格取得に関して課題となったこと、苦勞したこと



資格取得時期によって、課題や苦勞したことに違いがあるかどうかをみると、在学中に取得した人では「学費、教材費など費用の負担」と「勉強や通学のための時間」をあげる回答がそれぞれ2割程度で最も多く、働きながら取得した人では「仕事との両立」が4割と突出して多い（図表3-19）。それまでの仕事を辞めて取得に専念した人では、「費用の負担」や「勉強や通学の時間」のほか、「資格が実際に役に立つかわからない」をあげる回答が多い。また、課題や苦勞したことが「特にない」という回答の割合が最も低い。求職活動をしながらか取得した人の場合、「資格が実際に役に立つかわからない」をあげる人が最も多い。

費用の負担については、求職活動中に取得した人では、仕事を辞めて取得に専念した人と比較して、課題とする回答の割合が10ポイント以上低い。両者の差は、求職活動中に資格を取得した場合、公的職業訓練を利用したケースがあると思われること、資格取得に専念した人の場合、医療分野や財務・法務など、修業年限が長く、学費等の負担が大きい資格をめざすケースが多いことなどの点も影響しているものと考えられる（第5章参照）。

図表3-19 資格取得に関して課題となったこと、苦勞したこと(取得時期別)

MA (%)

課題	在学中あるいは卒業直後に取得	働きながら資格を取得	それまでの仕事を辞めて学習に専念し、資格を取得	求職活動をしなが ら資格を取得(職 業訓練を受講した 場合を含む)	その他	合計
学費、教材費など費用の負担	20.2	10.6	26.6	15.8	10.9	14.6
勉強や通学のための時間	19.4	19.1	18.8	13.1	12.8	18.7
仕事との両立	4.0	40.1	9.0	7.2	7.4	25.0
家事、育児など家庭との両立	0.5	6.4	11.8	11.0	30.4	5.8
学習内容や学習の進め方がよくわからない	5.7	6.0	9.3	6.4	6.2	6.1
資格が実際に役に立つかどうかわからない	6.9	7.3	14.4	21.7	15.2	8.5
近くに適当な学校・教育訓練機関がない	3.5	2.8	5.3	4.8	3.9	3.2
学校や教育機関がどの程度信頼できるかわからない	2.1	1.1	3.9	4.0	1.9	1.7
相談相手やアドバイザーがない	2.6	4.4	6.5	5.6	6.2	4.0
その他	1.9	1.9	3.5	4.3	7.4	2.3
特になし	56.6	40.1	34.3	42.2	41.2	45.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
n	2544	4709	432	374	257	8316

資格区分別にみると、仕事をしながら資格を取得する人が多い介護福祉士、精神保健福祉士、社会福祉士、建築士、通関士などで「仕事との両立」が特に多く、「理学療法士」、「言語聴覚士」など医療分野の資格で「学費、教材費など費用の負担」をあげる割合が高くなっている(資料編「資格別概況」参照)。